

算 数 通 信

（自己テーマ）「子どもが見方・考え方を働かせ、自ら学習を進めるには？」

テーマ：自由進度学習の実践紹介

能動的に学ぶ子どもを育てるために、授業改善に取り組んでいます。能動的に学ぶ子どもは、先生から指示された問題を次々解いて終わったら「次は何をしたらいいですか。」と質問する子ども・・・ではなく、自分で疑問をもったり、自分で考えたりする学びができる子どものことです。

現在、町内小学校の先生方には、算数科の授業改善に取り組んでいただくことをお願いしています。算数科の特質を踏まえた指導を行ったり、教師が予め決めた本時の大事なことは子どもに発言させたりする対応など取り組んでいただいています。

この機会に、次へのステップを目指していただければと思います。

甲山小 田鍋先生（1年生担任）は、2年生担任の松本先生と協働して、自由進度学習を進めておられます。田鍋先生は算数科・生活科・国語科の複数教科で、松本先生は算数科です。その中で、田鍋先生の算数科について紹介したいと思います。

1年生 算数科 単元名「ながさ めいじんに なろう」 全15時間扱い

○ 会場 家庭科室（算数科・国語科）、多目的ホール（生活科）

○ 子どもたちに示した目標（前面黒板上部に掲示）

- | | |
|------------------------------------|------------|
| 1 ぴったり あわせて ながさを くらべることができる・・・ | こおす①②③ |
| 2 どうぐを つかって ながさを くらべることができる・・・ | こおす④⑤⑥⑦ |
| 3 ますの いくつぶんを つかって ながさを くらべることができる。 | ・・・ こおす⑧⑨⑩ |

その下には、「3つのわざ」を書いたものが掲示されています。

■ぴったり めいじんの わざ

- | | |
|---------------------|--------------|
| ・はしを そろえて くらべる！ | ←教P28①の内容と対応 |
| ・まっすぐに のばして くらべる！ | ←教P28①の内容と対応 |
| ・かみは おって かさねて くらべる！ | ←教P28②の内容と対応 |

■どうぐの めいじんの わざ

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ・てえびや くりっぱは まっすぐにして はかる。 | ←教P29の内容と対応 |
| ・うごかないように きをつけて はかる。 | |

■ますの めいじん わざ

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| ・しらべたいものの はしから はしまでの ますを かぞえる。 | ←教P31の内容と対応 |
| ・かぞえまちがえて いないか たしかめる。 | |

目標に対して、それぞれコースが①～⑩まで設定されています。①を紹介します。

コース①の説明文

ぴったり めいじん こおす①
すところの ながさを ぴったり
あわせて どちらが ながいか
くらべましょう。
①すところ ②りぼん ③もおる
④かみてえび ⑤すところ
⑥まじっく ⑦がようし

コース①の写真



コース①のプリント

ぴったり めいじん こおす①

1 がくしゅう こおなあで ながさをくらべて、なが
いほうに ○をつけましょう。

① (ぴんくのすところ ・ あおのすところ)

.....

⑦ (きいろのがようし ・ みずいろのがようし)

■これらの他に、準備されているもの

・単元計画表 (児童への説明用・児童
が計画する用紙)

・プリントの解答 など

田鍋先生にお話を伺いました。

1 やって見て発見したことがありますか？

・「聞くだけでわかる子もいれば、動画を3回見てやり方を理解する子もいました。子どもによって分かり方がそれぞれ違うということを改めて感じました。」

2 自由進度学習を行うにあたって、大事な力と思ったことがありますか？

・「読む力です。プリントを読まず、絵や直感ですぐ活動する子どもがいて。ふだんからの指導が必要だと思いました。」

・「わからないとき、自分から言える子に育てておくことも大事だと思います。」

3 学習を進めるにあたって、どのような教材研究をしましたか？

・「子どもたちがどんなところでつまずくかを予想し、その策を考えておくことです。」

それは、行ってほしい活動を文章や絵でどのように説明すれば分かるかということです。例えば、長さを比べるのに、「ねじれたもの、ななめのもの、まるまったものをまっすぐに直す」ことや「紙を折って横と縦の長さの違いを比べる」ということです。

・「活動することとプリントを行うことのバランスに気を配りました。活動するだけでは何を習得したか学習の成果が見えにくくなります。またプリントの比重を多くすると知識偏重の学習になってしまう恐れがあります。活動したことを習得させるために、必要な文章化の量を苦心しました。」

子どものつまずきを予想した学習環境づくりと、子どもの様子を見ながらの学習環境の改善が大切だと思いました。